

モダニズム文芸の研究

名前 和田 茂俊

役職 教授

学位 文学修士

伊東静雄、中野重治、安西冬衛、宮沢賢治、
太宰治、江戸川乱歩など。

モダニズム詩をめぐるさまざまな論考において、それが「客観」の言語であることを理由に、表出する主体の主観を考慮せず、言語の実験性のみ焦点を当てる読みがしばしばなされているように思われる。「意味のない詩を書くことによつて、ポエジイの純粹は実験される」と春山行夫のテーゼにあるように、モダニズム詩に主観のあらわな表明はない。だがそれは、モダニズム詩に主観がないことを意味してはいないだろう。

ベイトソンは、「言葉にはかならず口調がある」し、その「口調はなくせない」（『精神の生態学』）と述べたが、解読の断念を迫るテクストには、「解読の断念を迫る」という表情がある。モダニズム詩の主観は、いわば主観を禁止するという主観である。安西冬衛においても、私たちはそうした「主観の禁止」、すなわち、〈罪を負う者の愛の禁止〉を読み取ることができよう。アジア大陸を舞台に反復される、探求と離脱の物語は、〈清浄と不潔〉〈飢渴と奔流〉の対立的コードを変奏しつつ、報われぬ愛への形而上的探求を行う〈機械への変身〉の想像力を定位させている。（「安西冬衛の自動機械」）

専門分野: 日本近代文学

技術協力・日本近代文学

連絡先 e-mail:wada@wakayama-nct.ac.jp